

3. 競技スポーツの振興

本県出身の選手が競技力を向上させ、国際大会や全国大会等で優秀な成績を収めることは、県民に大きな感動と活力を与え、郷土愛を育みます。

また、活躍した選手が指導者として本県の競技力向上を担い、更なる競技水準の向上や競技人口の拡大につなげるなど、県下のスポーツ振興の好循環を図っていく必要があります。

【数値目標等】

★本県ゆかりの日本代表選手数

平成26年度 41人 ⇒ 平成32年度 60人

★国民体育大会の順位（男女総合成績）

平成26年度 1位

⇒ 平成32年度 10位台を目指しつつ、20位台定着



(1) 競技スポーツ選手・指導者の計画的な育成・強化

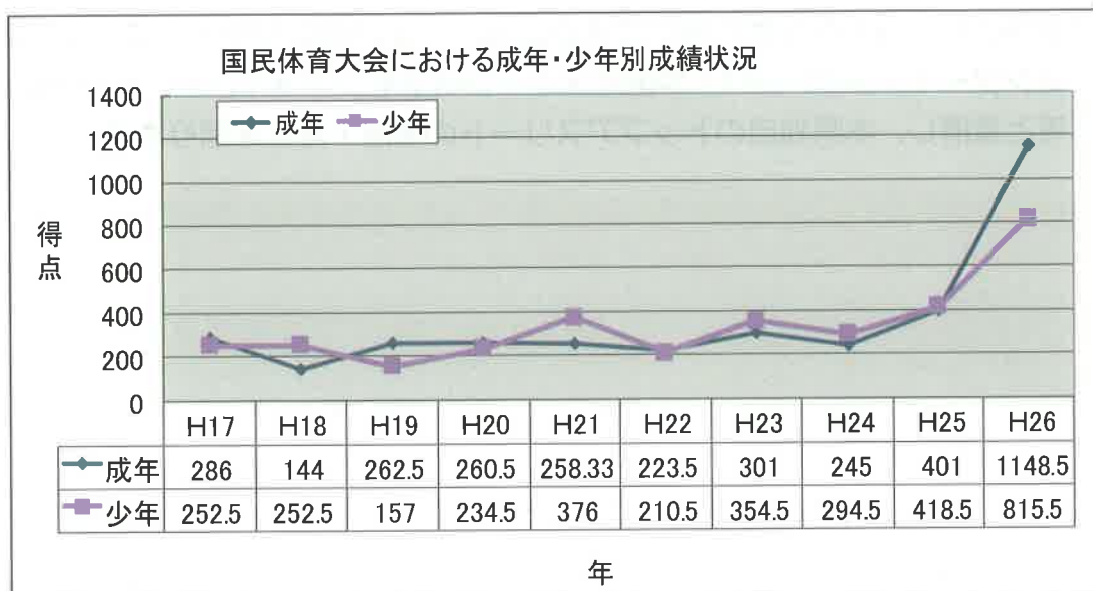
【現状と課題】

本県では、平成26年に開催した「長崎がんばらんば国体」において、官民一体となって計画的に取り組んできた競技力向上の成果を発揮し、総合成績1位を達成しました。国体開催を契機に強化された競技力と本県の強化策の方針である「チーム長崎」として戦う体制を今後も維持することが重要です。

長崎国体における競技力向上のレガシー（遺産）を継承しつつ、さらに、これまでの取り組みにより整備された選手の育成・強化体制や優れた能力を有する選手・指導者を活用し、競技力の維持と更なる向上に努める必要があります。

◆ 国民体育大会の成績

年・開催地	H17 岡山	H18 兵庫	H19 秋田	H20 大分	H21 新潟	H22 千葉	H23 山口	H24 岐阜	H25 東京	H26 長崎
男女総合成績 (天皇杯順位)	24	37	35	30	20	31	15	20	10	1



【施策の方向】

長崎国体に向けた競技力向上の成果を継承し、世界へ羽ばたく選手の育成・強化や指導者の養成と資質の向上に取り組めます。

① 育成・強化体制の充実

- 「長崎がんばらんば国体」を契機に整備された育成・強化体制を活用し、ジュニア期からの計画的な選手の育成・強化を図るとともに、本県の競技特性や各競技団体の組織体制に応じた中・長期的な支援を行います。
- 国民体育大会に向けた競技力向上のため、選手の受け皿としての企業スポーツが少ない本県においては、今後も「ふるさと選手」制度の活用を推進します。
- アジアを中心とした国々とのスポーツ交流や合同練習会等を通じ、今後も指導者と選手の相互派遣を通じた競技力向上に努めます。
- 選手が全国大会等で活躍することは、県民に大きな活力と勇気をもたらすため、引き続き各種表彰等を継続します。
- 素質のある選手を早期に発掘できるよう、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）（※1）や国立スポーツ科学センター（JISS）（※2）等と連携し、本県独自のトップアスリートの発掘・育成を図ります。

※1 独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）とは、JAPAN SPORT COUNCIL の略称で、我が国におけるスポーツの振興及び児童生徒等の健康の保持増進を図るための中核的・専門的機関として、「国内外のスポーツに関する情報の収集・分析」「日本のスポーツ推進のための開発・支援」などの業務を行っています。

※2 国立スポーツ科学センター（JISS）とは、我が国のスポーツの国際競技力向上に向けた、スポーツ医・科学研究推進の中核機関として、平成13年10月に開所しました。施設は、スポーツ医・科学の研究施設（体力科学実験室等）と、トレーニング施設（トレーニング体育館等）や、サービス事業を行うための施設（栄養指導食堂等）で構成されています。

②ジュニア層の育成・強化・充実

- 「長崎がんばらんば国体」で強化された競技力を更に充実させ、「2020年東京オリンピック」や10年に1度の実施となる「北部九州総体」において主力となるジュニア層や、国民体育大会において新設される女子種目の育成・強化に取り組みます。
- 強化校・強化選手・中体連専門部を指定し、遠征・合宿費等を引き続き助成するジュニアスポーツ推進事業を継続します。
- 本県の競技特性を活かした「お家芸的競技」について、計画的な強化に取り組みます。
- 本県の地理的条件を活かしたマリンスポーツの強化・充実に取り組みます。



③指導者の育成及び資質向上

- 競技力向上を図るためには、選手の発掘・育成とともに、優秀な指導者を確保・育成することが重要です。このため（公財）長崎県体育協会や競技団体、学校体育団体等と連携し、指導者に求められる高度な専門的知識・指導技術の習得や指導者としての倫理・社会規範に関する意識の啓発を図るための指導者研修会や講習会を通じて指導者の資質向上に取り組みます。
- 豊かな競技経験や知識を有する選手が、将来、本県の指導者として活躍し、次代を担う少年選手に経験や知識を還元できるよう、スポーツ非常勤職員を活用するとともに指導者の育成スタイルの確立を目指します。
- 本県トップクラスの指導者の飛躍的な資質向上を図りながら、日本を代表するような世界の舞台で活躍できる指導者の育成に取り組みます。

(2) 競技環境の整備

【現状と課題】

本県の選手・チームが国民体育大会等の全国大会レベルで活躍するためには、全国トップレベルにある企業・大学等のチームの強化とともに、拠点となる高等学校運動部の育成・強化が重要です。このため、これらの運動部等の日常的な練習を充実させる質の高い競技環境の整備が必要となります。

【施策の方向】

競技力向上推進システムの好循環を図り、競技スポーツを支える環境の整備に取り組みます。

① 育成・強化活動の充実

- 競技力の強化や育成の拠点となる高等学校運動部を指定し、日常的な練習への外部指導者の派遣や合同練習・県外遠征等の充実を図るとともに、中学校・高等学校の一貫した強化に継続して取り組みます。
- 「長崎がんばらんば国体」を契機に創設・強化されたクラブチームや企業チーム等の支援を図ります。
- 各競技の強化・育成の拠点となる学校に、継続して優秀な指導者の配置等を行い、競技力の向上に努めます。
- 全国トップレベルの選手・指導者等を招へいすることにより、更なる競技力の向上を図ります。

② 一貫指導体制の強化・充実

- 競技スポーツ選手の育成・強化については、成長・発達段階に応じたジュニア選手の発掘・育成に努め、中学校期・高校期には、計画的に選手を強化し、成年選手へとつないでいく一貫指導を基盤とする「発掘→育成→強化」の体制を今後も進めていきます。
- 特に国体拠点校で培った地域を基盤とした選手強化のシステムをうまく機能させながら、『地域の強化拠点』とし、より高いレベルを目指した育成・強化に努め、地域との連携と競技力の維持に取り組みます。

○中学校、高等学校のジュニア選手を育成・強化するため、学校体育団体と競技団体との連携を推進します。

○成年選手の育成・強化や受け入れ体制を充実させるため、県内企業スポーツの活性化と地域クラブチームの充実を図ります。

③競技スポーツ大会の充実

○「ラグビーワールドカップ2019」、「2019女子ハンドボール世界選手権大会」、「2020年東京オリンピック」や「平成29年度全国中学校体育大会」、10年に1度開催される「北部九州総体」への意識高揚を図るために、(公財)長崎県体育協会、各競技団体、県中学校体育連盟、県高等学校体育連盟等関係団体と連携を図りながら、競技力の向上と九州大会レベル以上の競技大会の開催を目指します。

④メディアの積極的活用

○各競技・種目に対する県民の認知度を高めるため、「長崎がんばらんば国体」の活発な情報発信を行ったメディアやソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)等を積極的に活用し、各競技における強化活動の取り組みや各種大会等のPR活動を推進します。



(3)スポーツ医・科学の整備と積極的活用

【現状と課題】

県立総合体育館をスポーツ医・科学の中核としてスポーツドクター、アスレティックトレーナー、栄養士等専門分野と競技指導者が連携・協力してジュニアアスリートの育成、タレント発掘、スポーツ医・科学講習会等を実施し、競技力の向上に取り組んできました。

「長崎がんばらんば国体」での成果を踏まえながら、今後の本県競技力の向上及び生涯スポーツの推進に向けて、スポーツ医・科学の効果的・効率的な活用が進むよう、総合的なサポート体制の充実を図ることが重要です。

【施策の方向】

スポーツ医・科学を積極的に活用し、支援する体制の充実を図ります。

①総合的なサポート体制の充実

- 選手が能力を最大限に発揮できるよう、スポーツ医・科学分野の専門家（スポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士等）と県内大学や研究機関との連携を図り、サポート体制を充実させるとともに、今後もスポーツ医・科学に関する研修会・講習会を開催し、積極的な活用が行われるようサポート体制の構築を目指します。
- 強化を考える上では、スポーツ医・科学の見地に基づく「科学的なトレーニング」を行うことが不可欠であることから、選手のスポーツ医・科学に関するデータ等を収集・分析し、指導者や選手へのフィードバックの充実を図ります。
- スポーツ医・科学に関する研究の質を高めるため、時代に即した機器の導入を図り、アスリートの更なる支援に努めます。
- スポーツ選手に対するコンディショニング指導等を実施するため、競技団体とアスレティックトレーナー長崎県協議会との連携を推進します。

②ドーピング防止教育・啓発事業

○競技者がスポーツにおける薬物乱用・誤用の認識を高め、健全なスポーツ活動を実践して行くため、国民体育大会出場監督・選手を中心としてアンチ・ドーピング教育・啓発活動を継続して取り組みます。

③スポーツ医・科学組織の整備

○トップアスリートや県民がスポーツを安全かつ効果的に行うためには、医・科学的サポートが重要不可欠であることから、スポーツ医・科学を担う組織の整備・充実に取り組みます。

○本県の競技力向上に関わるスポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士等のスポーツ医・科学関係者を競技団体等が実施する事業・研修会や大会等に派遣するなど、スポーツ医・科学分野による支援体制の整備・充実に取り組みます。



(4)国体等で充実したスポーツ施設・設備の活用

【現状と課題】

国体等開催を契機として整備された県立総合運動公園陸上競技場などのスポーツ施設や設備を有効に活用し、様々な競技の強化合宿や実技講習会等の充実を図ることで、競技力を維持することができます。

今後の本県の競技力向上及び生涯スポーツの推進に向けて、スポーツ施設・設備の効果的な活用体制を整えることが必要です。

【施策の方向】

スポーツ施設の充実と活用を図ります。

- 既存の競技施設を点検・整備し、今後、だれでも利用しやすいような時代に即した施設・設備の充実を図り、国体を契機に整備された施設とともに効率的に活用し、競技力の向上に取り組みます。



(5)障害者スポーツの競技力向上

【現状と課題】

障害者スポーツには主に3つの要素があり、機能回復を目的とした「リハビリテーションスポーツ」、体力の維持や増強を目的とした「生涯スポーツ」、競技性を求める「競技スポーツ」など、スポーツ活動を行う障害者の目的や意識も様々です。

そのなかで「競技スポーツ」については、平成26年11月に本県で開催された「長崎がんばらんば大会」を契機にスポーツ施設の整備、指導体制強化のほか、強化選手の指定、強化合宿への助成などを通して、選手の育成・強化が図られました。

また、平成27年10月に文部科学省の外局としてスポーツ庁が設置され、今後は2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、国内外において障害者スポーツの機運が高まってきており、県内における障害者スポーツの振興につなげていく必要があります。

【施策の方向】

長崎がんばらんば大会での成果定着と東京パラリンピックを契機とした障害者スポーツの振興を図ります。

①障害者スポーツチーム等への活動支援の充実

- （再掲）障害者スポーツを行う団体が開催する県内大会等に対して助成していた「長崎県障害者スポーツ振興助成金」において、新たに団体競技チームの活動支援を充実します。
 - ・練習会場借上代と活動経費への支援
 - ・九州地区予選会参加費等への支援

②東京パラリンピックキャンプ地誘致推進

- 世界のレベルを間近で感じ、高い技術を持ったパラリンピアンと交流することによって、障害者スポーツの競技力向上や裾野拡大につなげるため、キャンプ地誘致に取り組みます。

③長崎県障害者スポーツ協会との連携強化

- 障害者スポーツ振興に向けて、長崎県障害者スポーツ協会と関係団体との連携を強化し、競技力の向上を目指します。